

令和7年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の 目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月24日実施)	総合評価 (3月23日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	○「個別最適な学び」「協働的な学び」の一体的な充実を実現する授業実践と、授業改善を行う。 ○児童・生徒一人ひとりのニーズにあわせた教育を行う。 ○カリキュラムマネジメントの視点を踏まえ、教育課程の編成に取組む。	①「個別最適な学び」「協働的な学び」につながる授業づくりを推進する。 ②児童・生徒一人ひとりのニーズにあわせ、ICT機器を授業で活用し、授業内容を充実させる。	①児童生徒観を明確にして改訂した指導案を作成し、将来への見通しを持って授業改善を行う。 ②ICT機器の研修等の継続と、ICTを活用した授業実践の発信を行い、効果的な指導を進める。	①改訂した指導案を標準化し、児童生徒の将来への見通しを持った授業改善を行うことができたか。 ②児童・生徒一人ひとりのニーズとICT機器の活用状況を把握して授業改善し、効果的な指導に繋がることができたか。	①標準化した指導案の使用、研修と研究を一体化した取組みが効果をあげている。肯定的評価保護者94% ②ICT機器の研修がさらに充実し、機器の活用が促進され、授業実践例が増えている。肯定的評価保護者70%	①来年度の研究でアセスメントをとりあげ、児童生徒観を明確にして授業改善を行う。 ②児童・生徒一人ひとりのニーズに合わせた活用事例の発信を行い、効果的な授業・支援に結びつける。	①より良い行動に視点を置き、見通しをもって適切な指導に結びつけている良い研究である。 ②ICT機器の活用は教員みんながスキルを習得して活用することが大切である。	①「指導観」をテーマに支援方法を検討し成果をあげた。研修と研究を一体化した取組みを来年度も継続し指導案に活かしていく。 ②ICT機器が充実し、研修も進んだことで活用事例が増えてきている。活用事例を学ぶことで効果的な授業・支援に結び付けていく。	①研究で行った「教材観」「指導観」を指導案に活かし、アセスメントにより「児童生徒観」を明確にして授業改善を進めていく。 ②様々な形態の研修により職員の活用能力向上に引き続き取組み、児童生徒一人ひとりのニーズに合わせた活用を進めていく。
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	○児童・生徒に対し、きめ細やかな指導・支援の充実を図る。 ○教育活動全体で人権の視点に立った学校づくりに取組む。	①一人ひとりの障害の状況やニーズに応じた組織的な通学支援体制を構築する。 ②意見を言い合える風通しの良い職場環境を構築し、人権を尊重した指導や支援を行う。	①医療的ケア児の通学支援体制整備の継続と、自立と社会参加に向けた指導支援を行う。 ②情報共有の方法を工夫し、適切な指導方法を共通理解して支援指導にあたる。	①一人ひとりの障害の状況やニーズに応じた通学支援体制を整備することができたか。 ②情報の共有が図られ、人権を尊重した指導や支援ができたか。	①医ケア通学支援とともに公共交通機関利用の学習が通学支援に結びついた。肯定的評価保護者93% ②人権尊重の肯定的評価は保護者95%教員96%	①学習内容が充実し自己肯定感と意欲を育てている。目指す姿を明確に系統的な学びを継続する。 ②日々の支援の見直しが人権尊重に結びついており継続する。	①自立と社会参加に向けた学習として移動手段は大切である。 ②子ども同士の人権意識にもアプローチしていくと良い	①医ケア通学支援の利便性は昨年より増加。スクールバスや自力通学の児童生徒への支援も丁寧に取り組んだ。 ②適切な指導方法を共通理解することが人権を尊重した指導・支援につながっている。	①個々の児童生徒の障害の状況や教育的ニーズを踏まえ、通学支援と学びを一体化して進めていく。 ②風通しの良い職場環境を構築し、適切な指導方法を共有することでより良い指導支援につながっていく。
3 進路指導・支援	○本人のニーズや適性に応じた、自己選択・自己決定のための継続した指導・支援に取組む。 ○児童・生徒の自立と社会参加に向けた主体的な取組を支援する。	①専門職、地域等と連携し児童・生徒一人ひとりのキャリア発達を支援する。 ②いつでも・どこでも誰とでも活動できるような、児童・生徒支援を行う。	①自己選択・自己決定を意識した取組みを充実させて授業づくりを行う。 ②地域の中での活動や地域に貢献する活動を系統だて計画的に実施する。	①専門職、地域等と連携し、子どもの自己選択・自己決定を進めることができたか。 ②地域の中での活動を通して、児童生徒が主体的に学ぶことができたか。	①専門職、外部機関等と連携した支援でキャリア発達に効果をあげた。肯定的評価教員92% ②近隣の施設や学校との交流で意欲や興味を持ち活動できた。肯定的評価教員92%	①小中高を通したキャリア発達を支援する取組みをさらに充実させる。 ②知識を体験につなげていく学習活動を計画的・系統的に行う。	①卒業後、数年後を見越して、進路情報について校内で情報共有していく必要がある。 ②周辺の地域でも伝統的な取り組みをしている、ぜひ協力したい。	①選択場面を増やしたり、専門職、外部機関と連携して情報提供の機会を増やしたりし、成果をあげつつある。 ②地域との交流により経験や様々な人との関わる機会が広がった。その学びを生活につなげていく。	①小中高を通して自立と社会参加を目指し、卒業後を見据えて系統立てた取組みを行っていく。 ②地域との交流を持続可能な取組にし、校内行事とも結びつけながら学びの場をつなげていく。
4 地域等との協働	○学校と地域の双方で連携・協働するための組織的・継続的な仕組みを構築する。 ○地域における特別支援教育のセンター的機能としての取組を推進し、共生社会の実現に向け取り組む。	①学校運営協議会を通し地域と協働するしくみ作りを進める。 ②地域のニーズの把握と支援を的確に行い、地域の特別支援教育の専門性を高める。	①地域と連携した取組みを年間指導計画に位置付け継続的に取り組む。 ②人的交流を進めながら、効果的なセンター的機能のあり方を検討する。	①地域との連携・協働を教育課程に位置付けることができたか。 ②小学校との人的交流を進めることにより、組織的な体制整備と人材育成ができたか。	①年間指導計画に位置付けたことで目的が明確になった。肯定的評価教員87% ②巡回相談26件。毎月職員会議で人的交流の報告。肯定的評価教員81%	①地域と連携した授業を持続可能な取組みとし児童生徒の学びを充実させていく。 ②地域のニーズを把握しセンター的機能の強化を引き続き進めていく。	①近隣での交流は障害に対する理解や意識に変化を感じる。 ②人的交流は特別支援について一緒に考えることが有効だった。	①年間を通して児童生徒たちの学びを広げる機会を設けることができた。 ②関係機関とも連携した校内支援を行うとともに、地域へのセンター的機能を推進した。	①地域との交流で得た学びを明確にし、小中高の段階的な教育活動を意識した地域との取組みを継続する。 ②人的交流での成果を活かして、校内外での組織的な支援体制を整えていく。
5 学校管理 学校運営	○地域と一体となった安全で安心な学校づくりに取り組む。 ○子どもたちと向き合う時間を確保し、教育の質を向上させるために、働き方改革を推進する。	①地域との繋がりを強化し、防災活動等を通して共生社会の推進に貢献する。 ②意識改革、業務のスリム化・効率化を図り、働きやすい職場環境を構築する。	①地域との繋がった取組みを進め、地域と一体となった防災システムを構築する。 ②会議の効率化、文書の簡素化、業務のスリム化を進める。	①地域や企業と連携し、防災システムを構築するとともに、共生社会の推進に貢献できたか。 ②子どもたちと向き合う時間を確保し、総労働時間を短縮することができたか。	①地域とともに防災訓練を実施し実効性のある訓練ができた。肯定的評価保護者94% ②情報伝達や事務処理など工夫した。肯定的評価教員66%	①地域との繋がりを強化し安全安心な防災体制を整えていく。 ②やるべき業務を明確にすることで働き方改革に取り組んでいく。	①引き渡し訓練は共有啓発のためにプリントなので情報発信すると良い。 ②学校もペーパーレス化に向けて取り組むとよい。	①様々な災害想定のマニュアルづくりや避難訓練を実施し、もしもの時に備えている。 ②学校全体で取組みを進めている。昨年度より肯定的評価が下がっているので分析が必要である。	①学校運営協議会の防災部会を軸に校内安全体制と防災体制の見直しと再構築を行う。 ②在校時間管理システムでの状況を衛生委員会等で伝えながら、業務の状況を確認し整理していく。

